



津上 晃寿
キャノントッキ
取締役会長兼CEO

経済同友会 つながる▶▶

リレートーク #226



田中 豊人
GEジャパン
専務執行役員

東京2020、 そしてその先へ

「トーキョー」

ブエノスアイレスからのテレビ中継を^{かなづ}固唾をのんで見守っていた私に、ついにその時がやってきた。日本時間2013年9月8日早朝、国際オリンピック委員会 (IOC) のジャック・ロゲ会長 (当時) が2020年夏季オリンピックの開催都市名「TOKYO」と書かれたボードを表にした瞬間、私はメールの送信ボタンを押した。当社ジェフリー・イメルト会長が署名済みの祝電を、猪瀬直樹都知事 (当時) に発信するためである。

私たちGEはIOCのトップスポンサー。照明、発電・送電システム、水処理、医療、輸送管理システム等々、弊社担当のカテゴリーは多岐にわたり、その責務は重い。2020年大会がイスタンブール、マドリッド、東京と、どこで開催されても成功に向けた支援が決まっていたが、日本人社員にとっては大きな違いである。早朝に奇声を発しガッツポーズが出たことは言うまでもない。

リオデジャネイロ大会でもGEは160以上の現地プロジェクトに携わり、先端技術で会場整備・大会運営を支えたが、東京大会関係者のお役にも立つべくGEジャパンも現地入りし、会場視察ツアーを何度も開催した。IOCとリオ側に特別な許可をいただき、普段決して立ち入ることができない競技場設備や、運営の舞台裏をご案内するためである。おらかなブラジル人気質も手伝い、ツアーのアレンジは困難を極めハプニングの連続であったが、参加者からは温かい感謝の言葉を数多く頂戴した。

いよいよ次の夏季大会は東京。昨今、とかくコスト一辺倒の議論に終始しがちに感じるが、招致時は「Discover Tomorrow -未来(あした)をつかもう」「日本が誇る創造力とテクノロジーを駆使し」「世界の人々を刺激する大会」といった心沸き立つ言葉が躍っていた。新国立競技場、エンブレム、豊洲用地問題等の件が重なり、新たなことにチャレンジしにくい雰囲気が醸成され、リスクを取った決定がしづらくなった現状を危惧している。1964年東京大会のハード面のレガシー(新幹線や高速道路等)がその後の日本の発展の契機になったように、2020年大会はIoT、ビッグデータ、デジタルを駆使し、世界に比類なき大会、そしてまちづくりをする絶好のチャンスではないか。国内の素晴らしい企業さまとともに、ぜひその一端を担っていきたい。

▶▶ 次回リレートーク

山下 良則
リコー
取締役 副社長執行役員